第四部 進化する大津町

近年、隣町へのTSMC(台湾積体電路製造)の進出などを受け、町への関心は高まり、特に半導体関連企業の需要が高まっています。7月の地価調査で、大津町の商業地の地価上昇率が32・4%と発表されました。これは全国1位の上昇率であり、町の注目度は加速度的に高まっています。

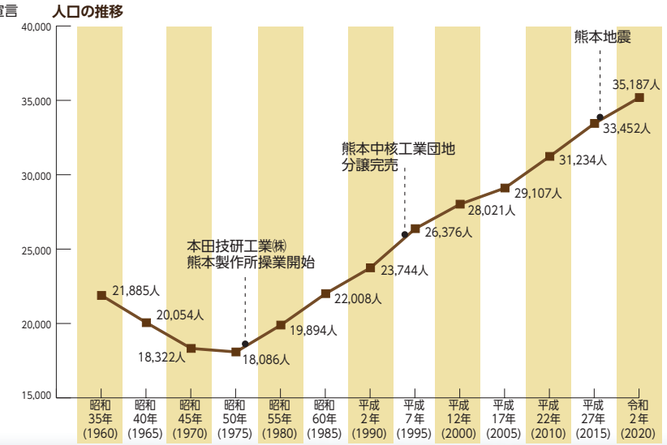
昭和51年、本田技研工業株式会社熊本製作所が創業したことで減少していた人口が増加に転じました。それは、大津町の「第一の夜明け」と呼ばれることもあります。誘致のために、用地交渉や海外派遣、さまざまな人がとても苦労しました。それが大津町の夜明けの始まりでした。そして、「第二の夜明け」と呼ばれる熊本中核工業団地造成。昭和63年6月に高尾野地区に熊本中核工業団地の造成工事が着工しました。その後、工業団地内に企業進出が進みます。平成18年6月には大津南部工業団地に企業の進出が決定し、正に「企業のあるまち」となりました。TSMC(台湾積体電路製造)の進出は大津町の「第三の夜明け」となるのではないでしょうか。

企業が増えると、働く場所が増える―。働く場所が増えると、人が増える―。新たに町に住む人は、今後ますます増える見込みです。町に住む人は日本人だけでなく外国人も一緒です。新しく大津町の住人となった人は町の歴史や文化を知らないでしょう。

これまで先人たちが受け継いできた大津町の歴史や宝。「大津のプライド」とも言えるそれを守り続けるためにも、私たちにもできることがあるでしょう。それは、「知ろう」とすること。町の歴史や文化を知らなければ伝えることができません。まずは、大津町がどんな歴史を経てきたのか、大津のあゆみを知るところから始めてみてはいかがでしょうか―。

大津のあゆみ

昭和43年11月	ブラジル・サンパウロ州サレゾポリス市と姉妹都市宣言
昭和46年 3月	熊本新空港開港
昭和47年 9月	国道57号バイパス竣工
昭和48年 1月	ミルクロード着工
昭和51年 1月	本田技研工業㈱熊本製作所操業開始
昭和63年 3月	都市公園「昭和園」完成
6月	熊本中核工業団地着工
平成 4 年 9月	人口25,000人を突破
平成 6 年 5月	熊本中核工業団地分譲完売
平成 7 年 7月	アメリカ・ネブラスカ州ヘイスティングズ市、アラパホ市との友好姉妹都市締結
平成 8 年 8月	町村合併40周年式典開催
平成17年12月	江藤家住宅国重要文化財指定
平成18年 6月	大津南部工業団地に企業進出
平成19年12月	町の人口が30,000人を突破
平成20年 5月	本田技研工業㈱熊本製作所と中・大型二輪車工場立地協定
平成28年 4月	熊本地震
令和 元年 7月	人口35,000人突破
令和 2 年 8月	JR 豊肥本線全線開通
10月	国道57号 現道・北側復旧ルート開通
令和 3 年 7月	役場新庁舎開庁



大津町のプライドが、私たちのプライド。

大津町にはたくさんの誇りがあることが、今回の特集を作成して分かりました。白川の水を大津町の北側に通そうと考えた加藤清正。清正の思いを継いだ人たちが完成させた上井手。その上井手に水が通ったことで水車が作られ、製粉業などが盛んになりました。それから、銅銭糖が誕生し、大津町を代表する銘菓になりました。

銅銭糖を作る3人が声をそろえて話していたのが「銅銭糖を作るのは私たちの代で終わるかもしれない」という悲しみにも似た思いでした。当たり前のように食べてきたお菓子がなくなるかもしれないと想像したとき、私たちはどう考えることができるのでしょうか。数十年後には大津町の味を二度と食べられないかもしれません。文化を継承していくことはとても困難であることが想像できます。

大津町には銅銭糖以外にもたくさんの誇りがあります。この誇りを守り続けるためには、私たちが大津町のことを「知って、見て、聞いて、食べて」感じたことを大津町のことを知らない人に伝えることが必要です。お土産に銅銭糖を選んでみたり、大津町のことをSNSで発信してみたりするのも伝えることの一つです。今後、企業が増加し、外国人が増加する中で、宿場町の思いを受け継ぐ「おもてなしの心」こそ大津の伝統を守ることにつながるのではないでしょうか。

そして、それはきっと、次世代への誇りとなり、いつまでも大津町を愛してくれることにつながるでしょう。

大津町の子どもたちが大人になったときに、自信を持って大津町のことを自慢する未来―。そんな「大津のプライド」を持つ人が増えるために、銅銭糖は、大津に在り続けているのです。

特集　大津のプライド銅銭糖　完